

手根管症候群

手の痺れ、物がつまみにくい

そんな時は“手外科”へ

副院長 整形外科診療部長 小橋 裕明



人類は直立二足歩行によって両手が自由になり、進化しました。特に親指と人差し指で物をつまむという行為は人間だけが獲得した特徴的な機能です。手は人間の行動と密接に関わりがある特別な器官で、その手の病気や怪我を診療するのが手外科です。

手にしびれや痛みをもたらす手根管症候群

手根管症候群とは、正中神経が手首のところで圧迫を受けて、親指から薬指の半分までにしびれや痛みなどが生じる疾患です。女性に多く、50代以降に生じやすい疾患ですが、むくみやすい妊娠前後に発症する場合があります。

手根管症候群は手術が必要？

サポーター(スプリント)による安静やステロイド注射など保存療法をまず行い、改善しない場合に手術をお勧めしています。

手根管開放術

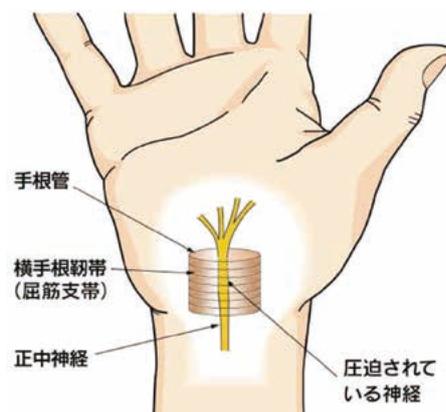
手術には大きくわけて直視下と鏡視下という2つの方法があります。直視下の場合は手掌部を切開するため、術後に手をついた際の痛みが強く生じるケースがあります。鏡視下の場合はこの術後の痛みが生じにくいメリットがありますが、内視鏡を使用するため視野が狭く、神経や血管を傷つけてしまうリスクが直視下より高くなります。

当院では従来の方法に工夫を加え、神経や血管を確認できる十分な視野を確保した、より安全性の高い鏡視下手根管開放術を行っています。

手術は日帰り、1時間程度で終わります。両手の手術が必要な場合は片手ずつ手術を行います。事務仕事であれば翌日からの復帰も可能ですし、水に濡れないようにすれば入浴も可能です。

早期治療が早期回復につながります

手根管症候群が進行すると、指の筋肉がやせて物がつまみにくくなり、治療後の回復にも時間がかかります。早期治療が早期回復につながりますので、手のしびれや痛みで悩んでおられる患者さんがおられましたら、ご紹介いただくと幸いです。



※日本手外科学会「手外科シリーズ1」から引用

副院長 整形外科診療部長

- 手外科 日本整形外科学会専門医
- 関節外科 日本手外科学会認定手外科専門医・指導医
- 外傷 日本整形外科学会認定リウマチ医
日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医
日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医

市立大津市民病院がんセンター がん相談支援室



2024年11月にがん相談支援室を開設しました。がんの治療、療養に関する情報提供や相談、患者さん同士の交流の場などにご利用いただいております。

地域の皆様どなたでもご利用出来ますので、どうぞお気軽にお越し下さい。



- 場所：本館5階 エレベーター降りてすぐ右
- ご利用可能日時：月～金曜日、9～16時（土日祝、年末年始を除く）
- がん相談：予約制、原則対面。

病院代表番号(077-522-4607)にお電話の上、ご予約をお取り下さい。



患者さん・ご家族の一人ひとりの思いを大切に、

多くのスペシャリストが情報共有・連携しながら、治療や心のケアなどを支援して参ります。

お気軽にお立ち寄りください。
がんの相談以外でも、情報収集がてらの休憩などにもご利用ください。

がんセンター担当副院長
田中 慶太郎(前列左)



どうぞよろしくお願いいたします。

どなたでもご利用いただけます。図書コーナーもございますので、来院の際には是非一度お立ち寄りください。

がんセンター長
中尾光成(前列中央)

図書コーナー



がん患者サロン なごみ 開催中

毎月第3火曜日13時～15時

参加費無料 ご予約不要

地域のがん患者さん、ご家族が自由にご参加いただけます。

Instagram



OTSUCITYHOSPITAL_OFFICIAL

HP



<https://och.or.jp/>

発行元

地方独立行政法人 市立大津市民病院
地域医療連携支援センター 地域医療連携室
Tel. 077-526-8192 (直通) Fax. 077-522-0192

業務時間

月～金曜日：午前8時30分～午後7時30分
土曜日：午前8時30分～午後12時30分